第 35 回

社会福祉士国家試験
講評

（第 35 回試験傾向と第 36 回試験対策）

無断転載・頒布を禁じます

令和５年２月５日実施 第35回社会福祉士国家試験
傾向と対策

１　第35回試験の総評と第36回試験の対策

【第35回試験の総評】

第35回社会福祉士国家試験は、各科目の基本的な知識や過去に出題された項目の繰り返しが多いという点では大きく変化したところはありません。受験者は、基本知識の修得と過去問題の演習、過去問題から派生した知識の修得の重要性が認識できたのではないでしょうか。第35回試験の特徴として、第34回試験と比べ、「事例問題が減って、正解肢を２つ選ぶ問題」が増えています。これは、知識の定着を念頭に置いたものと思われます。また、一部の科目では、見慣れない語句や難問もいくつか出題され、戸惑った受験者もいたのではないでしょうか。そのような問題は、多くの受験者も正解できないため、合否に影響を与えるものではありません。そのような問題に惑わされることなく、確実に正解すべき基本的な問題を正確に得点に繋げられるかどうかが合否を分けるポイントになると思われます。例年通り、相談援助の科目で高得点を獲得することが合格の条件となっていると言えるでしょう。

【第36回試験の対策】

社会福祉士国家試験の大部分の問題は、各科目の基本事項や過去に出題された項目から構成された問題です。過去の試験問題に取り組むことで問題形式や問題文に慣れ、参考書等で基礎事項及びその周辺知識を勉強して、「基礎的事項を問う問題を確実に正解する力」や「選択肢の中から正答を導きだす力」を身つけることが合格につながる対策といえます。また、**確実に正解すべき基本的な問題か、無視してもかまわない難問かの見極めも重要な対策です。このような見極めの能力は、漫然と過去問題を繰り返し解くことや参考書等で基礎事項及びその周辺知識を勉強することで身につくものではありません。そのためには、出題傾向などが整理された講座等を活用して効率的な勉強を心がけましょう。**

【第35回社会福祉士国家試験の出題形式】

第35回社会福祉士国家試験の出題数は、共通科目83問、専門科目67問の合計150問で出題され、科目ごとの問題数も例年通りでした。

事例問題の出題数は、合計28問（共通科目11問、専門科目17問）出題され、第34回試験の31問（共通科目12問、専門科目19問）から３問減りました。事例問題が出題された科目の内訳は、共通科目「人体の構造と機能及び疾病」１問、「地域福祉の理論と方法」２問、「社会保障」１問、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」２問、「低所得者に対する支援と生活保護制度」１問、「保健医療サービス」１問、「権利擁護と成年後見制度」３問、専門科目「相談援助の基盤と専門職」２問、「相談援助の理論と方法」８問、「高齢者に対する支援と介護保険制度」２問、「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」３問、「就労支援サービス」１問、「更生保護制度」から１問でした。

第25回の試験から出題されている**正解肢を２つ選ぶ問題の出題数は、20問（共通科目8問、専門科目12問）**出題され、第34回試験の16問（共通科目3問、専門科目13問）から４問増えました。正解肢を２つ選ぶ問題が出題された科目の内訳は、共通科目「人体の構造と機能及び疾病」１問、「地域福祉の理論と方法」１問、「福祉行財政と福祉計画」１問、「障害に対する支援と障害者自立支援制度」２問、「低所得者に対する支援と生活保護制度」１問、「保健医療サービス」１問、「権利擁護と成年後見制度」１問、専門科目「社会調査の基礎」３問、「相談援助の基盤と専門職」２問、「相談援助の理論と方法」６問、「高齢者に対する支援と介護保険制度」１問でした。**正解肢を２つ選ぶ問題は、共通科目からの出題が増えました（35回試験８問←34回試験３問）。**

なお、**正解肢を２つ選ぶ問題で事例問題の出題数は、合計８問の出題でした（共通科目５問、専門科目３問）。**

正しいものを選ぶ、適切なものを選ぶ以外の問題は、今回も出題はされていません。

２　科目別の第 35 回試験傾向と第 36 回試験対策

【共通科目】

①　「人体の構造と機能及び疾病」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「思春期に伴う心身の変化」「国際生活機能分類(ICF)の基本的概要」「疾病の予防」「がん(悪性新生物)死亡数(統計問題)」「パーキンソン病の原因と症状」「脳梗塞における障害(事例問題)」「注意欠如・多動症(ADHD)」でした。また、出題形式は、事例問題が１問、統計問題が１問、正解肢を２つ選ぶ問題は１問の出題でした。

出題の傾向は、概ね出題頻出が高い項目からの出題でした。「国際生活機能分類(ICF)の基本的概要」の問題は、今回も予想通りの出題でした。今回は、出題頻度が高い「精神疾患の診断統計マニュアル(DSM-5)」の問題は１問単体では出題されず、１つの選択肢に止まり、「注意欠如・多動症(ADHD)」が出題されました。「注意欠如・多動症(ADHD)の問題は、過去に出題され他科目でも出題があるものの、本科目では出題頻度が高い項目とはいえないので、正解するのが難しかったのではないかと思います。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士の支援対象者が人であるため、人の身体的な働きなどの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「老化」、「疾病の概要」、「障害の概要」、「国際生活機能分類(ICF)」、「精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM-5)」、「リハビリテーション」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解(７問中目標４問正解)できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、「精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM-5)」の項目は、出題頻度は高いが、細かい難解な内容が問われるため勉強時間を割かず、他の項目を勉強することが大切です。

②　「心理学理論と心理的支援」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「内発的動機づけ」「５因子モデル（ビッグファイブ）」「傍観者効果」「子どもの発達の特性」「問題焦点型ストレス対処法（コーピング）」「心理検査」「心理療法」でした。また、出題形式は、事例問題や統計問題、正解肢を２つ選ぶ問題の出題はありませんでした。

出題の傾向は、毎回の出題傾向に沿った基礎的な知識を問うバランスの良い出題がなされました。「心理検査」や「心理療法」の問題は、今回も予想通りの出題でした。各種の心理検査や心理療法の基本的な概要を理解していないと正解が難しかったのではないかと思います。問題９の５因子モデル（ビッグファイブ）の問題は、性格理論の１つですが、仮に５因子モデル（ビッグファイブ）が分からなかったとしても、常識の範囲で判断して正解すべき問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士の支援対象が人であるので、人の精神的な働きなどの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「欲求・動機づけと行動」、「学習・記憶・知能」、「発達（障害）」、「ストレス」、「心理検査」、「心理療法」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強するのが合格を目指す対策です。

③　「社会理論と社会システム」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「ヴェーバーの支配の類型」「社会変動の理論と提唱した人物」「近年の家族の動向(統計問題)」「生活を捉えるための概念」「社会的役割」「共有地の悲劇」「ラベリング理論」でした。また、出題形式は、事例問題の出題はなく、統計問題は１問の出題、正解肢を２つ選ぶ問題は出題されませんでした。

出題の傾向は、概ね出題頻出が高い項目からの出題でした。「共有地の悲劇」や「ラベリング理論」の問題は、今回も予想通りの出題でした。問題16「社会変動の理論と提唱した人物」の問題では、社会変動の理論と提唱した人物が一致できないと正解が難しかったのではないかと思います。また、問題17「近年の家族の動向(統計問題)」は、男女共同参画白書(内閣府)を読んでいないと難しく感じた問題だと思います。「共有地の悲劇」や「ラベリング理論」の問題は、出題頻度が高い問題で確実に正解すべき問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が人を支援する時、人と人の関係性や生活、社会問題の捉え方などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「社会集団・組織」、「家族」、「個人の社会化」、「社会的ジレンマ」、「社会問題の捉え方」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解(７問中目標５問正解)できるように勉強するのが合格を目指す対策です。

なお、統計に関する項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくのが合格への効果的な勉強方法です。

④　「現代社会と福祉」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「地域共生社会」「福祉に関わる思想や運動」「福祉政策と提唱した人物」「近代日本おいて活躍した福祉の先駆者」「福祉六法の制定時における対象」「ニーズの特徴と提唱した人物」「生活困窮者自立支援法」「人口動向」「福祉サービスの利用」「男女雇用機会均等法」でした。また、出題形式は、事例問題の出題はなく、統計問題は選択肢での出題に止まり、正解肢を２つ選ぶ問題は出題されませんでした。

出題の傾向は、概ね出題頻出が高い項目からの出題でした。ただ、問題23「福祉に関わる思想や運動」の問題は難問で、しっかり勉強していた受験者でも正解することが難しかったのではないかと思います。今回は、出題頻度が高い「福祉政策と関連政策（教育、住宅、労働）」の問題は出題されませんでした。問題24「福祉政策と提唱した人物」、問題25「近代日本おいて活躍した福祉の先駆者」、問題27「ニーズの特徴と提唱した人物」の問題は、人物とその事項の基本的な知識が修得できていれば正解すべき問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が日常生活に課題を抱える人から相談に応じる時、適切なアドバイスを行うにはわが国の社会福祉政策の基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「現代社会における福祉制度と福祉政策」、「海外における福祉制度の発達過程」、「福祉政策におけるニーズと資源」、「社会問題（貧困等）」「現代的課題（自然災害等）」、「福祉政策の論点（ジェンダー等）」、「福祉政策と関連政策（教育、住宅、労働）」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（10問中目標７問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

⑤　「地域福祉の理論と方法」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「地域福祉の理論・概念」「地域福祉における多様な参加の形態」「地域共生社会を実現するための厚生労働省の取り組み」「自立相談支援機関の社会福祉士の対応(事例問題)」「社会福祉法における地域福祉」「市町村地域福祉計画」「共同募金」「災害時における支援体制」「地域におけるネットワーキング」「地域ケア会議(事例問題)」でした。また、出題形式は、事例問題は２問の出題、統計問題の出題はなく、正解肢を２つ選ぶ問題は事例問題で１問出題されました。

出題の傾向は、概ね出題頻出が高い項目からの出題でした。今回は、出題頻度が高い「民生委員」や「社会福祉協議会」からの出題はありませんでした。今回も予想通り、地域包括ケアシステムや地域共生社会を問う内容が多く出題されました。問題39では、「災害時における支援体制」の問題が出題され、災害対策基本法や福祉避難所の知識が求められました。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士は相談者が生活課題を抱えながらでも地域で自立した生活を営んでもらえるよう支援するため、このような基本的な知識を身に付けておく必要性があるので出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「地域福祉の概念・理念」、「わが国の地域福祉の発展過程」、「社会福祉法(地域福祉の推進等)」、「行政組織と民間組織」、「地域福祉関連施策」、「地域福祉の専門職と地域住民」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解(10問中目標７問)できるように勉強することが合格を目指す対策です。

⑥　「福祉行財政と福祉計画」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「厚生労働省に設置されている機関」「都道府県知事の役割」「民生費（統計問題）」「社会福祉法に関わる法定機関・施設の設置」「都道府県地域福祉支援計画」「市町村に義務づけられている福祉に関連する計画」「福祉計画で定める事項」でした。また、出題形式は、事例問題の出題はなく、統計問題は１問の出題、正解肢を２つ選ぶ問題は１問出題されました。

出題の傾向は、出題頻出の高い項目からの出題でした。「福祉計画の種類」に関する問題は、出題頻度が高いため、第35回においても予想通り出題がなされました。問題44の統計問題は、「地方財政白書」からの出題であり、「地方財政白書」の統計問題は第32回、33回、34回と連続で出題されており、第35回では、民生費に関して問われました。本科目では、全体的に基本的な知識を問う問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が福祉サービスをアドバイスする時、わが国の福祉サービスの提供体制（福祉行政）などの基本的な知識を身に付けておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「福祉行政の国の役割」、「福祉行政の都道府県の役割」、「福祉行政の市町村の役割」、「福祉行財政の動向（地方財政白書）」、「福祉計画の種類」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように学習することが合格を目指す対策です。

なお、「福祉行財政の動向（地方財政白書）」の項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくのが合格への効果的な勉強方法です。

⑦　「社会保障」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「日本の社会保障の歴史」「日本の社会保険」「社会保険制度の加入（事例問題）」「公的医療保険における被保険者の負担」「労働者災害補償保険制度の概要」「社会保険制度の適用」「公的年金制度」でした。また、出題形式は、事例問題は１問出題され、統計問題の出題はなく、正解肢を２つ選ぶ問題も出題がありませんでした。

出題の傾向は、出題頻度の高い項目からの出題でした。今回の特徴として、健康保険、国民健康保険の知識を問う問題が多く出題されていました。問題49「社会保障の歴史」の問題は、第34回に引き続き、第35回においても出題となりました。問題51「社会保険制度の加入」の事例問題は、各選択肢の人物の要件を問題文から正確に判断できるかが重要で、健康保険、国民健康保険、介護保険、国民年金の細かい知識も問われました。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士への相談が主に介護、医療、年金、雇用などの生活課題が中心であることからわが国の社会保障制度の基本的な知識を身に付けておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「日本の社会保障の沿革」、「厚生年金」、「国民年金（基礎年金）」、「労災保険」、「雇用保険」、「健康保険」「国民健康保険」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、「社会保障の動向（社会保障統計等）」に関する項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくのが合格への効果的な勉強方法です。

⑧　「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「障害者福祉制度の発展過程」「障害者総合支援法における介護給付費等の支給決定」「障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス(事例問題)」「障害者総合支援法等に基づく専門職」「相談支援事業所の相談支援専門員が行う支援内容(事例問題)」「身体障害者福祉法」「精神保健福祉法に規定されている入院」でした。また、出題形式は、事例問題は２問出題され、統計問題の出題はなく、正解肢を２つ選ぶ問題は２問出題されました(うち、事例問題で１問出題)。

出題の傾向は、概ね出題頻度の高い項目からの出題でした。今回は、障害者総合支援法の自立支援給付からの出題に偏っていたのが特徴的です。問題56「障害者福祉制度の発展過程」の問題は、第31回から３回連続で出題されていたものの、第34回では出題がなく、第35回から再び出題がなされました。問題57、58、59は、障害者総合支援法に関する問題で、内容的には基本的な知識を問う問題でした。問題62「精神保健福祉法に規定されている入院」は、各入院の基本的な意義を理解できていれば正解にたどり着けたのではないかと思います。また、第31回、32回、33回、34回と連続で出題されていた「生活のしづらさなどに関する調査」の問題は、第35回では出題されませんでした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が障害者から相談に応じる時、予め障害の概念や障害者の特性、障害者の実態、障害者支援制度などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「障害者の概念等」、「障害者の実態」、「障害者福祉の発達過程」、「障害者支援法の自立支援給付」、「自立支援給付の利用手続」、「自治体の役割」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解(７問中目標５問正解)できるように勉強することが合格を目指す対策です。

⑨　「低所得者に対する支援と生活保護制度」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「生活保護の動向（統計問題）」「生活保護法の概要」「生活保護の種類と内容」「生活扶助基準の設定方式」「生活困窮者自立支援法」「生活福祉資金貸付制度」「自立相談支援機関の相談支援員による支援（事例問題）」でした。また、出題形式は、事例問題は１問の出題、統計問題も１問出題され、正解肢を２つ選ぶ問題は事例問題で１問出題されました。

出題の傾向は、出題頻度が高い項目からバランス良く出題されました。問題63、問題64、問題65、問題66は、生活保護制度の基本的な知識を問う問題でした。問題67は、生活困窮者自立支援法からの出題でした。問題68は、生活福祉資金貸付制度からの出題で、生活福祉資金貸付制度の問題は、過去３回連続出題です。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が低所得者等から相談に応じる時、公的扶助や低所得者等が直面する生活課題と支援制度などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「生活保護法の原理と原則」、「保護の実施機関と実施体制」、「生活保護の種類」、「生活困窮者自立支援法」、「生活困窮者自立支援法」、「生活福祉資金貸付制度」、「生活保護の動向」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、「生活保護の動向」の項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくことが合格への効果的な勉強方法です。

⑩　「保健医療サービス」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「医療保険の適用」「国民医療費（統計問題）」「診療報酬制度」「医療保険体制」「後期高齢者医療制度」「医療ソーシャルワーカーによる支援（事例）」「トランスディシプリナリモデル」でした。また、出題形式は、事例問題は１問、統計問題は１問出題され、正解肢を２つ選ぶ問題は１問の出題でした（事例問題で正解肢を２つ選ぶ問題）。

出題の傾向は、概ね出題頻度の高い項目からの出題でした。今回は、第32回試験から出題がなかった「診療報酬制度」から出題がありました。問題71「国民医療費」の統計問題は、第34回に引き続きの出題でした。今回の特徴として、問題72「診療報酬制度」は、診療報酬の非常に細かい部分からの出題で難問でした。問題76「トランスディシプリナリモデル」は、初めて聞く言葉で戸惑ってしまった受験者も多かったのではないでしょうか。ただ、問題文の「医療チーム内で専門分野を超えて横断的に役割を共有する」という一節から連想すると正解を導き出せる問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が保健医療に課題を抱えている人から相談に応じる時、保健医療制度や保健医療サービス、保健医療関係者との連携などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「医療保険制度の概要」、「医療施設の概要」、「医療法」、「医療ソーシャルワーカー」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、「国民医療費（統計問題）」の項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくことが合格への効果的な勉強方法です。

⑪　「権利擁護と成年後見制度」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「日本国憲法における基本的人権」「成年後見制度（事例問題）」「成年後見人の利益相反状況（事例問題）」「成年後見制度（補助）」「日常生活自立支援事業（統計問題）」「家庭裁判所」「地域包括支援センターの社会福祉士による支援（事例）」でした。また、出題形式は、事例問題は２問出題され、統計問題は１問出題されました。正解肢を２つ選ぶ問題は１問出題され、事例問題で正解肢を２つ選ぶ問題での出題でした。

出題の傾向は、概ね出題頻度が高い項目からの出題でした。問題77「日本国憲法」の問題は、隔年で出題されています。この日本国憲法の問題自体は、常識の範囲で正解することができたのではないでしょうか。一方、出題頻度の高い行政法の問題は、第35回では出題されませんでした。成年後見制度に関する問題は３問出題され、問題79「成年後見人の利益相反状況」の事例問題では、民法の知識を事例に応用することが必要でした。問題82「家庭裁判所」の問題は、家庭裁判所の取扱いの範囲の知識を問う基本的な問題でした。問題83「消費者被害」の問題は、現在の社会状況を反映した出題と言えるでしょう。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が日常生活上の支援（金銭管理など）が必要な方などから相談に応じる時、権利擁護活動を支える法令の知識や成年後見制度などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「憲法」、「民法」、「行政法」、「成年後見制度」、「日常生活自立支援事業」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、統計に関する項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくのが合格への効果的な勉強方法です。

【専門科目】

①　「社会調査の基礎」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「社会調査」「統計法」「標本調査」「社会調査における測定・尺度」「質問紙を作成する際の留意点」「参与観察」「ＫＪ法」でした。また、出題形式は、事例問題と統計問題の出題はなく、正解肢を２つ選ぶ問題は３問の出題でした。

出題の傾向は、出題傾向の高い項目で、基本知識の出題がなされました。問題85は、統計法の問題で第30回、32回に出題されており、第33回、34回には出題がなく、再び第35回で出題となりました。本問は、統計法の基本を捉えていれば正解できる問題でした。問題90は、「ＫＪ法」に関して単独で１問の問題でした。データの分析方法である「ＫＪ法」がどのような方法であるかの特徴を捉えていれば正解しやすい問題であったと思います。本科目では、基本的な知識が身についていた受験者であれば、全体的に正解しやすい問題だったのではないでしょうか。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士の業務として、地域の生活課題の把握や社会資源の開発などをする際、量的調査と質的調査の特徴や方法、社会調査における倫理などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「社会調査の意義、目的、対象」、「量的調査（全数調査と標本調査、質問紙の作成、調査票の作成と回収、調査票の集計と分析）」、「質的調査（観察法、面接法、データの整理と分析）」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

②　「相談援助の基盤と専門職」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「社会福祉士」「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」「ソーシャルワークの形成過程」「障害支援施設の生活相談員による支援（事例問題）」「リッチモンド」「福祉事務所に配置される所員の業務」「ピンカスとミナハンの４つの基本的なシステム（事例問題）」でした。また、出題形式は、事例問題は２問出題、統計問題の出題はなく、正解肢を２つ選ぶ問題は２問の出題でした。

出題の傾向は、出題頻度の高い項目からの出題でした。問題91「社会福祉士」の問題は、社会福祉士の試験なので、毎回出題され、今回も予想通りの出題となりました。問題92「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」の問題は、毎回出題されおり、過去問を解き、定義全体を一通り見直していた受験者は正解できたのではないかと思います。問題93「ソーシャルワークの形成過程」は、頻出項目です。人物名とその人物の功績に関する問題の出題が多いですが、第35回では、歴史的な事実の正誤の判断が求められた問題であり、ソーシャルワークの形成過程の流れを正確に把握していることが重要でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士が相談援助業務に携わるにあたって、基盤となる知識や倫理を習得するため、社会福祉士法やソーシャルワークがどのように形成されてきたのかという歴史的背景、理念や倫理を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「社会福祉士及び介護福祉士法」、「バイステックの７原則」、「ソーシャルワークの定義」、「ソーシャルワークの形成過程」、「相談援助に係る専門職」の項目です。**そして、最も重要なのは、「バイステックの７原則」です。これは、他の科目の事例問題でも、正解を導く基準になります。これらの項目は、得点源として、確実に正解（７問中目標６問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、本科目は、単独で勉強するのではなく、「相談援助の理論と方法」と一体的に学習するのが効果的な勉強方法です。

③　「相談援助の理論と方法」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「家族システムの視点に基づいた対応（事例問題）」「ソーシャルワークの各アプローチの概要」「エンパワメントアプローチ」「相談援助の過程におけるプランニング」「相談援助の過程におけるモニタリング」「相談援助の過程における終結」「ソーシャルワークにおける援助関係」「留学支援室の社会福祉士の対応（事例問題）」「児童養護施設の社会福祉士の対応（事例問題）」「面接における留意点」「若年性認知症支援コーディネーターの対応（事例問題）」「アウトリーチ」「ソーシャルサポートネットワーク」「グループワーク」「基幹相談支援センターの社会福祉士の対応（事例問題）」「スーパービジョン」「ソーシャルワークの記録」「記録の文体（事例問題）」「利用者と家族に対するソーシャルワーク」「児童指導員の対応（事例問題）」「医療ソーシャルワーカーの対応（事例問題）」でした。また、出題形式は、事例問題は８問出題、統計問題の出題はなく、正解肢を２つ選ぶ問題は６問出題されました（事例問題で３問出題）。

出題の傾向は、毎回出題される項目や出題頻度が高い項目から満遍なく出題されました。本科目は、事例問題が多く出題され、一定の知識が必要な問題もありますが、常識的な感覚や実際の相談援助業務をイメージすることができると、正解できる問題が多い傾向です。第35回でもその傾向が見られました。ソーシャルワークのアプローチは、数多くありますが、それぞれの特徴を理解し、相談援助の各過程、援助関係、面接技法などの基本的な知識を習得している受験者であれば、基本問題が多く、正解できるのではないかと思います。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士の主要な業務である相談援助を行う際のアプローチや相談援助がどのような過程をたどるのかなどの基本的な知識を身につけておく必要性があるので出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「バイステックの７原則」、「相談援助の過程」、「相談援助の対象（個別援助技術（実践モデル）、集団援助技術、地域援助技術、関**

連援助技術)」「援助関係(面接技術)」、「面接技術」、「ネットワーキング」「記録」、「社会資源」、「スーパービジョン」です。これらの項目を効率的に勉強して得点源とし、確実に正解(21問中目標18問正解)できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、「相談援助の理論と方法」、「相談援助の基盤と専門職」の事例問題は、「バイステックの７原則」の知識を利用して、正解できる問題が多いので、正確に知識を身につけておくことが効果的な勉強方法です。

【ＭＥＭＯ】

④　「福祉サービスの組織と経営」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「社会福祉法人の組織体制」「特定非営利活動法人の組織運営」「福祉・医療サービス提供組織・団体」「組織運営」「福祉サービスの経営」「人材確保・育成」「福祉サービス第三者評価事業」でした。また、出題形は、事例問題や統計問題、正解肢を２つ選ぶ問題の出題はありませんでした。

出題の傾向は、概ね出題頻度が高い項目からの出題でした。重要な用語とその意味の理解や基本的な知識を習得していることで正解できる問題でした。問題119では「社会福祉法人の組織体制」の問題、問題120は「特定非営利活動法人の組織運営」の問題が出題され、この２問は、それぞれの組織の細かい規定を理解している必要があり、難しく感じる方が多かったのではないかと思います。毎回出題される「財務諸表」の問題は、今回は出題がされませんでした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士の業務において、様々な福祉サービスの組織と関わることとなり、また、福祉サービスの経営に携わることも想定されます。その際に、組織や経営の基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「福祉サービスの組織や団体（社会福祉法人、特定非営利法人）」、「経営に関する基礎理論（組織に関する基礎理論、管理運営に関する基礎理論、リーダーシップの基礎理論）」、「財務諸表」、「管理運営（適切なサービスの提供、人材育成）」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

⑤　「高齢者に対する支援と介護保険制度」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「高齢者の生活実態(統計)」「日本の高齢者保健福祉施策の変遷」「ボディメカニクスの基本原理」「介護上の留意点(事例問題)」「高齢者に配慮した環境整備」「介護保険料－第１号保険料」「指定居宅介護支援事業所と介護支援専門員の役割」「要介護(要支援)認定」「老人福祉法」「専門職の役割(事例問題)」でした。また、出題形式は、事例問題が２問、統計問題が１問、正解肢を２つ選ぶ問題は１問の出題でした。

出題の傾向は、概ね出題頻度が高い項目からの出題でした。問題126「高齢者の生活実態」の統計問題は、「高齢社会白書」に基づく問題でしたが、直近では第30回、32回、34回と出題されており、頻出の問題です。問題127「日本の高齢者保健福祉施策の変遷」の問題は、連続で出題されている項目で、第35回でも予想通りの出題でした。問題128「ボディメカニクス」の問題や問題129「介護上の留意点」を問う事例問題、問題130「高齢者に配慮した環境整備」の問題は、実際に介護の現場をイメージできると正解できる問題でした。問題131、132、133の「介護保険」や「介護支援専門員」の問題は、細かい知識を問う選択肢もありました。問題135「専門職の役割」を問う事例問題は、各専門職の役割を理解していれば正解できる問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士として高齢者の相談援助において、介護保険の概要や介護技法などの基本的な知識を身につけておく必要性があるため出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「介護保険制度（介護保険の仕組み、介護保険のサービス」、「老人福祉法」、「介護技法」、「高齢者福祉の動向(高齢社会白書)」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解(10問中目標７問正解)できるように勉強することが合格を目指す対策です。

なお、「高齢福祉の動向(高齢社会白書)」の項目は、細かな数字を暗記するのではなく、傾向を理解しておくことが効果的な勉強方法です。

⑥　「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「里親養育包括支援（フォスタリング）機関における社会福祉士の対応（事例問題）」「施設の役割（事例問題）」「児童虐待防止法」「子育て世代包括支援センターにおける社会福祉士の対応（事例問題）」「児童手当」「保育士」「児童相談所長の権限」でした。また、出題形式は、事例問題が３問出題され、統計問題と正解肢を２つ選ぶ問題の出題はありませんでした。

出題の傾向は、概ね出題傾向が高い項目の基本的な知識からの出題でした。問題136「里親養育包括支援（フォスタリング）機関における社会福祉士の対応」を問う事例問題は、社会福祉士の対応として、明らかに不適切な対応の選択肢は判断できるため、正解すべき問題でした。問題137「施設の役割」を問う事例問題と問題139「子育て世代包括支援センターにおける社会福祉士の対応」は、それぞれの施設や事業の理解と、事例への当てはめが求められた問題でした。問題141「保育士」の問題は、過去１つの選択肢で出題されていたが、今回は１問単体での出題で保育士の資格に関する知識が必要でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、昨今、児童虐待やＤＶが大きな社会問題となっている中、社会福祉士として児童や家庭に関する相談に応じる際に、児童福祉法や児童虐待防止法、児童相談所、児童福祉専門職の役割などの基本的な知識を身につけておく必要性があるので出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度の高い項目は、「児童福祉法の目的」、「児童福祉施設」、「児童虐待防止法」、「児童相談所の役割」、「児童手当」、「里親」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（７問中目標５問正解）できるように勉強することが合格を目指す対策です。

⑦　「就労支援サービス」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「福祉における就労の概念」「有期雇用労働者などの保護を定める労働法規」「障害者雇用促進法」「福祉事務所における社会福祉士の対応(事例問題)」でした。また、出題形式は、事例問題が１問出題され、統計問題と正解肢を２つ選ぶ問題の出題はありませんでした。

出題の傾向は、概ね出題頻度が高い項目からの出題でしたが、正解すべき問題と細かい知識を問う選択肢が含まれる問題に分かれていました。問題143「福祉における就労の概念」の問題は、用語と意味の結びつけが求められる問題で、基本知識で対応できるため、正解すべき問題でした。また、問題146「福祉事務所における社会福祉士の対応」を問う事例問題は、社会福祉士の対応として、明らかに不適切である選択肢の判断ができるので正解すべき問題でした。

【第36回試験の対策】

本科目は、社会福祉士として就労支援の相談援助に携わる際、対象に応じて適切な制度や機関の利用ができるように、就労支援制度や就労支援に関わる組織・専門職の役割などの基本的な知識を身につけておく必要性があるので出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「労働法規概要」、「就労支援制度概要（生活保護制度における就労支援制度、障害者福祉施策における就労支援制度、障害者雇用施策概要）」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（４問中目標２問正解）できるよう勉強することが合格への対策です。

なお、「就労支援制度概要」の項目は、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」と「低所得者に対する支援と生活保護制度」と内容が一致するところもあるので、合わせて勉強するのが効果的な勉強方法です。

⑧　「更生保護制度」

【第35回試験の傾向】

出題項目は、「保護観察」「保護観察所が行うことができる措置(事例問題)」「更生保護における就労支援に関わる機関・団体」「医療観察制度」でした。また、出題形式は、事例問題１問出題され、統計問題と正解肢を２つ選ぶ問題の出題はありませんでした。

出題の傾向は、概ね出題頻度が高い項目の出題でした。本科目は、全体的に正確な知識の理解が問われる問題で、難易度が高い問題でした。問題147「保護観察」の問題は、第34回では出題されませんでしたが、第31、32、33回では出題されており、出題頻度の高い項目です。「更生保護制度」は、複雑な制度で苦手な受験者が多い科目です。第35回においても、「保護観察」「保護観察所」「医療観察制度」の仕組みや概要を正確に理解していないと難しかったと思います。

【第36回試験の対策】

社会福祉士が活動する領域の中に、刑事司法があります。本科目は、犯罪や非行を行った者に対する相談に応じる際、更生保護制度や医療観察制度などの基本的な知識を身につけておく必要性があるので出題されます。合格を目指す勉強方法は、出題頻度が高い項目から勉強することです。**出題頻度が高い項目は、「更生保護の制度概要（制度概要、保護観察）」、「更生保護制度の担い手（保護観察官、保護司、更生保護施設）」、「医療観察制度概要（制度概要、社会復帰調整官）」です。**これらの項目を効率的に勉強し、確実に正解（４問中目標２問正解）できるよう勉強することが合格を目指す対策です。

著作権者　株式会社東京リーガルマインド
©2023　ＴＯＫＹＯ　ＬＥＧＡＬ　ＭＩＮＤ　Ｋ．Ｋ．　Ｐｒｉｎｔｅｄ　ｉｎ　Ｊａｐａｎ
無断複製・無断転載等を禁じます。